3 ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

EXPRESSBUILDER

Expressサーバ

セットアップユーティリティ

EXPRESSBUILDER*（313ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

Power Console Plus（サーバ）（331ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerAgent （329ページ）
- エクスプレス通報サービス（334ページ）
- BMC Online Update（345ページ）
- DianaScope（352ページ）
- システム診断ユーティリティ（361ページ）
- オフライン保守ユーティリティ（406ページ）

テープデバイス管理ユーティリティ

テープ監視ツール（337ページ）

LAN

管理PC

その他

各種オンライン
ドキュメント
（HTML/PDF）

セットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER*（313ページ）
- ExpressPicnic（322ページ）

システム管理ユーティリティ

- ESMPRO/ServerManager（352ページ）
- DianaScope（352ページ）

ディスクアレイ管理ユーティリティ

Power Console Plus（管理PC）（353ページ）

* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

- BTO（工場組み込み出荷）で購入した本装置のハードディスクドライブには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください（これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません）。

  － ESMPRO/UPSController Ver. 2.1（340ページ参照）
  － PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J（343ページ参照）

- ディスクアレイコントローラを詳細に設定するユーティリティは、各ボード上へ格納されています。これらのユーティリティの設定方法については、ボードに添付の説明書を参照してください。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ(またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ)だけを接続してセットアップしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

> **重要** **本装置にディスクアレイコントローラボードが搭載されている時は、EXPRESSBUILDERを使用する場合にのみ、LANコンソールリダイレクション機能を無効にしてください。**

● 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

EXPRESSBUILDERを本装置のCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法で本装置を起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

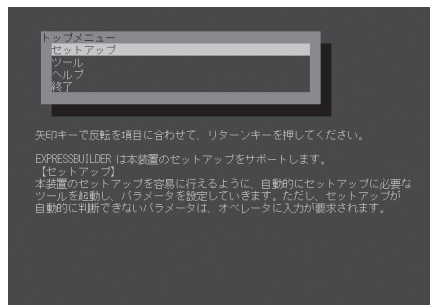
このメニューにある項目から本装置をセットアップします。

> **重要**
> - **本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。**
> - **メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。**

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- **コンソールレスで「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する**

  キーボードやマウス、ディスプレイ装置を本装置に接続していない状態でEXPRESSBUILDERを本装置のCD-ROMドライブから起動するすると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「トップメニュー」が表示されます。

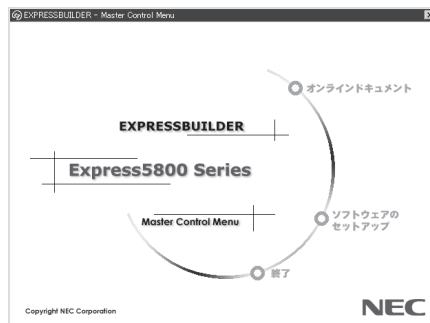
  管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。

重要

- **本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。**
- **コンソールレス時の使用は、本装置にキーボードが接続されていないことが条件です。本装置にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。**

トップメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- **Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする**

  Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

  マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

重要

BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定する。

起　動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置のCD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

ソフトウェア編

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS（Windows Server 2003/Windows 2000）、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。
購入時の状態と異なるハードディスクドライブのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。

重要

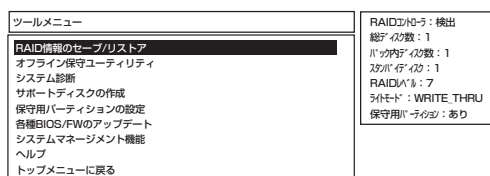
- **「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクドライブの内容が失われることがあります。**
- **セットアップを開始したら、完了するまで本装置の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。**

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。

また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

- **RAID情報のセーブ/リストア**

重要

この機能をサポートしていないディスクアレイコントローラもあります。その場合このメニューは表示されません。

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

－ RAID情報のセーブ

フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのをフロッピーディスクを用意してください。

－ RAID情報のリストア

フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

- **オフライン保守ユーティリティ**

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。 詳細は406ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● **システム診断**

本装置上で各種テストを実行し、本装置の機能および本装置と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。361ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● **サポートディスクの作成**

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

－ Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 x64 Editionをインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

－ Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

－ オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ システムマネージメント機能

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

● **保守用パーティションの設定**

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「FDISKの起動」以外の項目は表示されません。保守用パーティションの詳細については、9ページを参照してください。

重要

「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、本装置をリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

- 保守用パーティションの作成

  55MB程度の領域を内蔵ハードディスクドライブ上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

- 各種ユーティリティのインストール

  各種ユーティリティ（システム診断/システムマネージメント機能/オフライン保守ユーティリティ）を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクドライブから起動した場合に、使用することができます。

- 各種ユーティリティの更新

  各種ユーティリティ（システム診断/オフライン保守ユーティリティ）を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

- FDISKの起動

  ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● **各種BIOS/FWのアップデート**

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』：http://nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。

重要 **BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本装置の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。**

● **システムマネージメント機能**

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

● **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本装置にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

重要

- **本装置以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていた本装置以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。**
- **コンソールレス時の使用は、本装置にキーボードが接続されていないことが条件です。本装置にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。**

起動方法

起動方法には管理PCと本装置の接続状態により、次の2つの方法があります。

- **LAN接続された管理PCから実行する**
- **ダイレクト接続(シリアルポートB)された管理PCから実行する**

起動方法の手順については「DianaScope」オンラインドキュメントを参照してください。

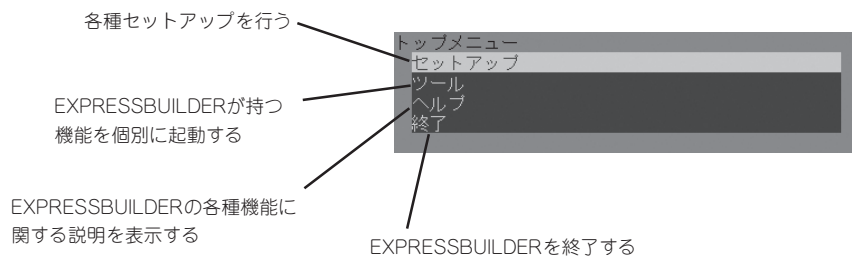
重要

- **BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになってないと使用できません。**
- **LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。**
- **ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。**
- **コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。
フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。**

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller 1 (10/100): [Enabled]
- Serial Port A: [Enabled]
  - Base I/O address: [3F8]
  - Interrupt: [IRQ 4]
- Serial Port B: [Enabled]
  - Base I/O address: [2F8]
  - Interrupt: [IRQ 3]
- Serial Port Address: [On-boad COM B]
- Baud Rate: [19.2k]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Console Type: [PC ANSI]

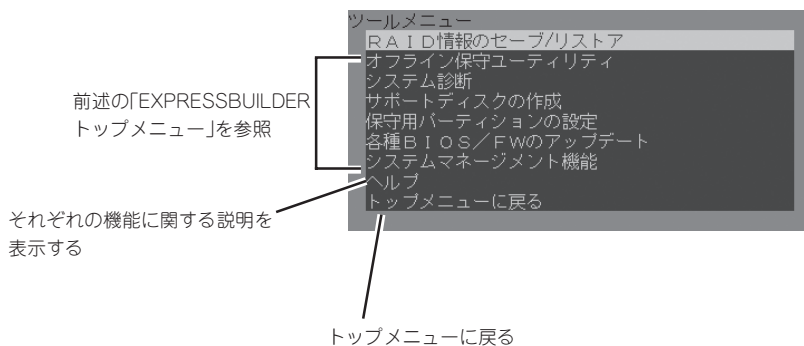
トップメニュー

トップメニューにある項目は次のとおりです。

セットアップ

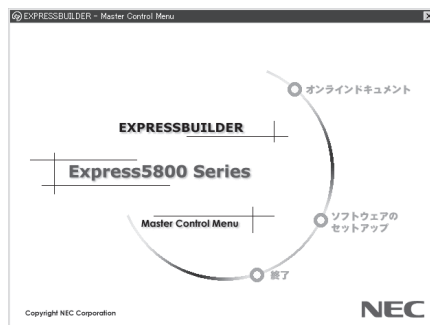
本装置のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的に行います。

ツールメニュー

トップメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。

ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると「システム診断」の内容や操作方法（詳しくは、361ページを参照してください）が異なります。

マスターコントロールメニュー

Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

<CD-ROMのドライブレター>:¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Reader がインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。

重要

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。

Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions用の「セットアップパラメータFD」は作成できません。

「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

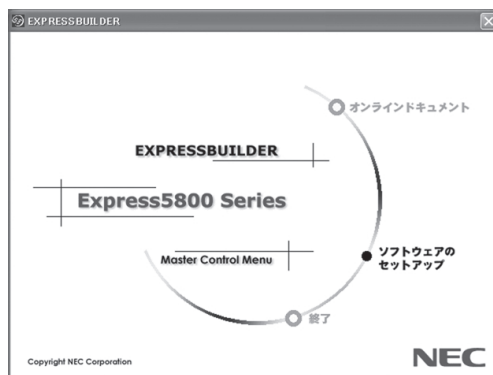
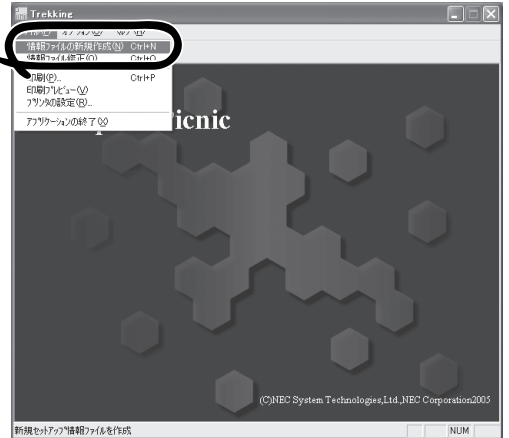
セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

   マスターコントロールメニューが表示されます。
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。
4. [ExpressPicnic]をクリックする。

   ExpressPicnicウィンドウが表示されます。

5. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

6. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

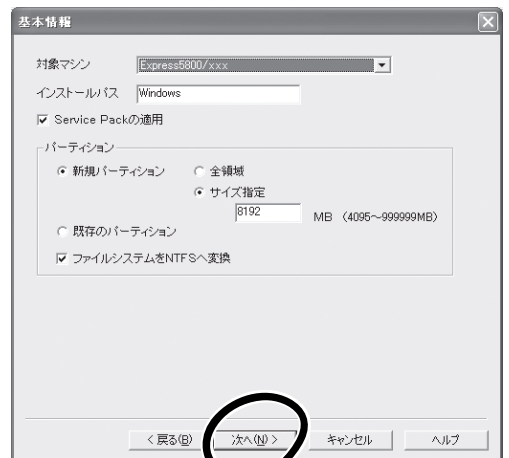
7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

   セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。

   チェック

   [キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

   ヒント

   使用者名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力し直すことができます。

8. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003またはWindows 2000をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 **追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップに対応している必要があります。**

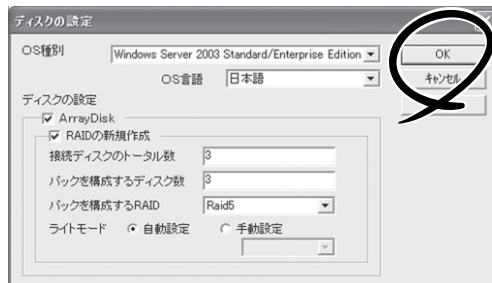
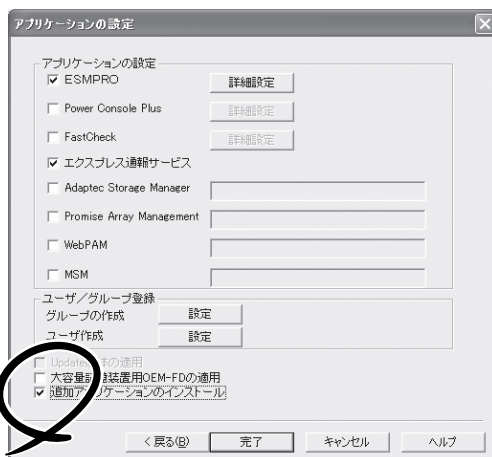
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(322ページ参照)。
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

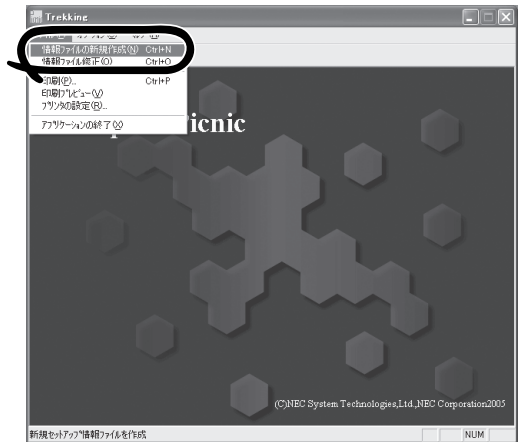
   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

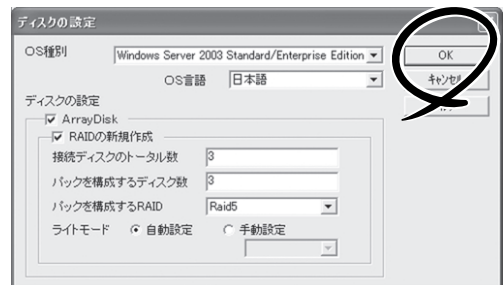
4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

   [キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。
6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

大容量記憶装置ドライバのインストール

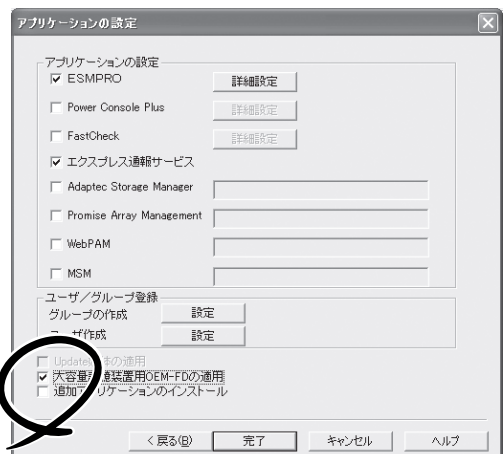
シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(322ページ参照)。
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。
6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

稼動機からの情報採取

ExpressPicnicが起動しているマシン(Express5800シリーズ)のセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。

- ユーザ／グループ情報は採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。
- Windows 2000のみサポートしています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(322ページ参照)。
2. [オプション]メニューの[稼働機からの情報採取]をクリックする。

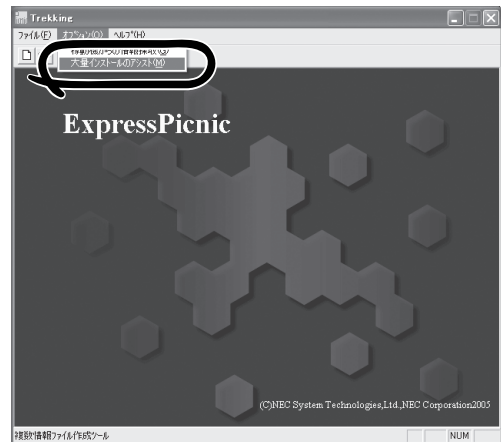
   採取後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、採取したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

ソフトウェア編

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（322ページ参照）。

2. ［オプション］メニューの［大量インストールのアシスト］をクリックする。

3. ［ファイルを開く］画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

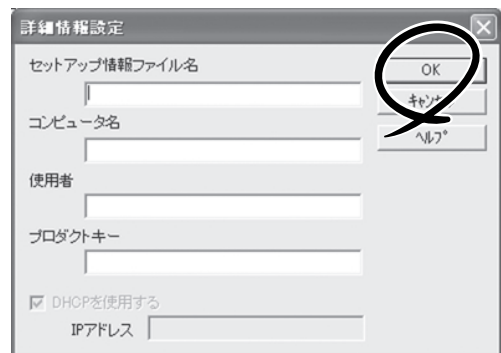
4. ［追加］をクリックする。

5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. ［OK］をクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、［FD作成］をクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

本装置用バンドルソフトウェア

本装置にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)は本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用します。本装置のＯＳが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

ヒント

アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent（Windows版）の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

Power Console Plus(サーバ)

Power Console Plusはディスクアレイシステムを構築しているWindowsサーバの監視・管理用のアプリケーションです。
Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

本装置の3.5インチハードディスクドライブベイまたはオプションの増設HDDケージをディスクアレイ構成にした場合、Power Console Plusをインストール後、Enclosure Managementメニューの Enclosure Property画面や、システムイベントログに以下のように表示されますが、3.5インチハードディスクドライブベイやオプションのHDDケージではFAN2は使用しないため、動作には問題ありません。

- Enclosure Property画面上

  Fan 1: Operational
  Fan 2: Not present

- システムイベントログ表上

  Adapter 1 Channel1 Target 6: Status of Fan #2=0x02: Not Installed
  オンボードRAIDコントローラにN8151-25B 内蔵MO装置を接続している場合、Power Console Plusでは内蔵MO装置を表示しませんが動作には問題ありません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus(サーバ)の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)をインストールしてください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。
シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)をインストールしてください。

手動インストール（新規インストール）

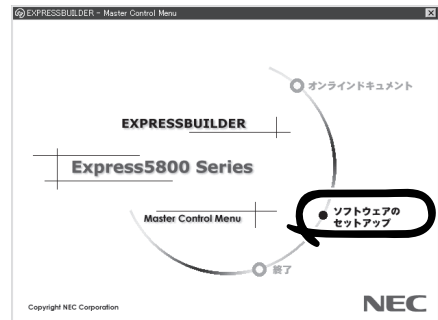
手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

Power Console Plus（サーバ）をインストールする前に

Power Console Plus（サーバ）をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- ディスクアレイのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Power Console Plus（サーバ）のインストール手順

Power Console Plus（サーバ）のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。WindowsではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアのセットアップ］－［ESMPRO］－［関連ユーティリティメニュー］－［Power Console Plus］の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ＋管理サーバ」をチェックし、［次へ］をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus（管理PC）をインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(サーバ)の環境設定

● HOSTSファイルの設定

ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCのIPアドレ スとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

● REGSERV.DATの設定

ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

● パスワードファイルのアクセス権設定

「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」(c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです)をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。
また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント／サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。

   アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。

   [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。

   エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ　18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量　30.0MB以上
- モデム
  ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由のエクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ
  電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
  ESMPRO/ServerManager* ＋ ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降

  * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。

  (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。
また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、本装置に搭載したテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。
ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している本装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。
サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名:　TapeAlertChecker
- スタートアップの種類:　自動
- ログオン:　システムアカウント
  [デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、本装置にインストールされていません。次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オンラインドキュメントは、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP6.pdf

動作環境

ハードウェア

- ハードディスクドライブの空き容量　2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
  - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
  - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

  Microsoft® Windows® Server 2003およびMicrosoft® Windows® XPはサポートしていません。

- アプリケーション
  - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
  - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
  - ARCserveIT J6.61 for Windows NT(全エディション)
  - ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
  - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
  - BackupExec for Windows NT Ver.8.5
  - NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)
  - #BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年9月現在・本内容は予告なしに変更されることがあります)。

● 内蔵/外付AIT	N8151-28/-34/-34A/-41/-41A/-44/-46、N8551-19/-28/-34、N8560-16
● 内蔵/外付AIT集合型	N8151-29/-36、N8551-20/-29/-36、N8560-17
● 内蔵/外付DAT(DDS3)	N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、N8560-12/-12AC
● 内蔵/外付DAT集合型(DDS3)	N8151-13AC、N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC
● 内蔵TRAVAN	N8551-21
● 外付TRAVAN集合型	N8560-19
● 内蔵/外付DAT(DDS4)	N8151-26/-43/-45、N8551-26、N8560-22
● 内蔵/外付DAT集合型(DDS4)	N8151-27、N8551-27、N8560-23
● 内蔵SLOT	N8151-38
● 内蔵LTO	N8151-37/-40
● 外付LTO	N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある「NEC 8番街(http://nec8.com/)」の「サポート情報」ー「商品情報・消耗品(Express5800・テクニカルガイド)」にある「バックアップ装置」を確認してください。

インストール手順

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMの次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。
インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。
監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(工場組み込み出荷)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。

BTO(工場組み込み出荷)で指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのESMPRO/UPSControllerのセットアップ

本装置のモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。
ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。
すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windowsの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

   [正常]　UPS通信開始
   [異常]　UPS通信エラー(無応答)
   このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

■ 確認2　ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[ESMPRO_UPSController]ー[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   [正常]　UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示される。
   [異常]　UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。
   この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]ー[ESMPRO_UPSController]ー[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. [UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

3. 正しく設定した後、[UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ]のメニューバーより、[ファイル]ー[上書き保存]を選択し、設定を保存する。

4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。

5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver.2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」−「設定」−「コントロールパネル」−「サービス」で次のサービスを停止する。
   - SPOC-I Service
   - ESMPRO/ARC Service
   - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。

   ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。
7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

   ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(工場組み込み出荷)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。

BTO(工場組み込み出荷)で指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

本装置のモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストールされています。
ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windowsの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

    [正常]　UPSとの通信が確立しました。
    [異常]　UPSとの通信が確立できません。
    このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

ソフトウェア編

■ 確認2　PowerChute *plus*のGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［PowerChutePLUS］ー［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   ［正常］　データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。

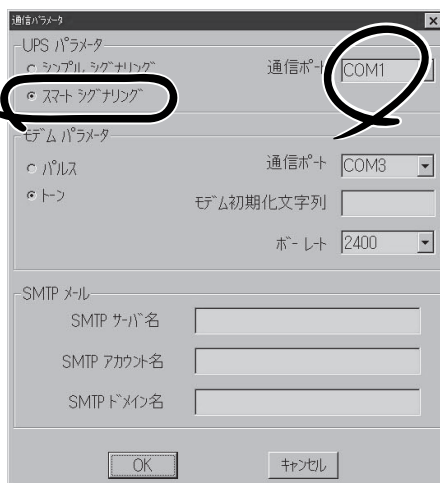
   ［異常］　UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
   この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［PowerChutePLUS］ー［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細は、PowerChute *plus*の「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメニューバーより、［構成］ー［通信パラメータ］を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、［OK］をクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、［システム］ー［別のサーバを監視］を選択し、再度監視するサーバを選択する。

4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール（再インストール）については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。

BMC Online Update

BMC Online Updateは、インターネットで配布される「BMC(Base board Management Controller)ファームウェア」を使用して、BMCファームウェアを更新するソフトウェアです。

動作環境

- **ハードディスクドライブの空き容量**

  2MB以上

- **サポートOS**

  Windows 2000 Server

  Windows 2000 Advanced Server

  Windows Server 2003 Standard Edition

  Windows Server 2003 Enterprise Edition

  Red Hat Linux Enterprise Linux ES 3

  Red Hat Linux Enterprise Linux AS 3

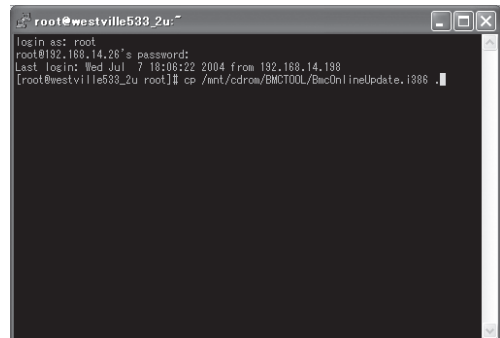
インストール

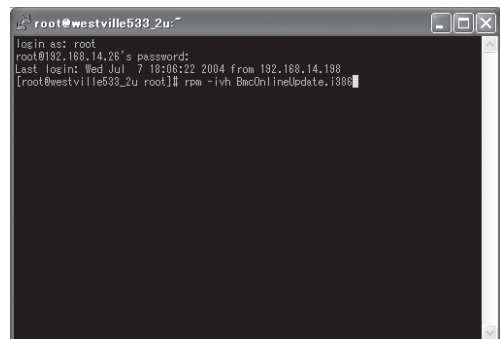
Windows Server 2003・Windows 2000

BMC Online Update(Windows版)のインストールは、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。
本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[BMC Online Update]の順にクリックしてください。
以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。

Linux

1. CD-ROMからファイルを適当なディレクトリにコピーする。

   cp /mnt/cdrom/BMCTOOL/OnlineUp/BmcOnlineUpdate.i386 .

2. rpmファイルを解凍する。

   rpm -ivh BmcOnlineUpdate.i386

起動方法

オペレーティングシステムによって異なります。お客様の環境に合ったものを参照ください。

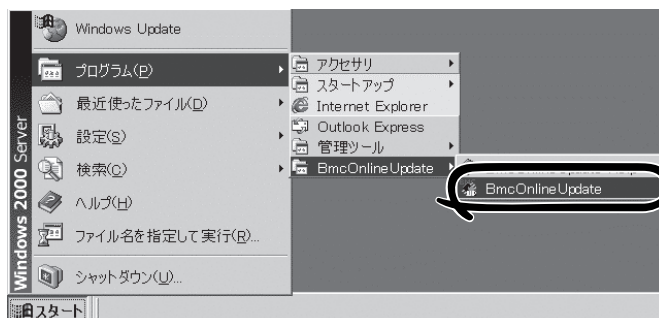
重要

- BMCファームウェアの更新作業をしている間は装置の電源をOFFにしないでください。更新作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。
- 更新されたBMCファームウェアは、本装置の再起動後に有効になります。再起動を行うまでは、更新前の状態で運用を継続します。

Windows Server 2003

スタートメニューから[全てのプログラム]ー[BmcOnlineUpdate]-[BmcOnlineUpdate]の順にクリックします。

Windows 2000

スタートメニューから[プログラム]ー[BmcOnlineUpdate]-[BmcOnlineUpdate]の順にクリックします。

Linux

下記の入力を行い、プログラムを開始してください。

```
cd /usr/BmcOnlineUpdate
./BmcOnlineUpdate -ja
```

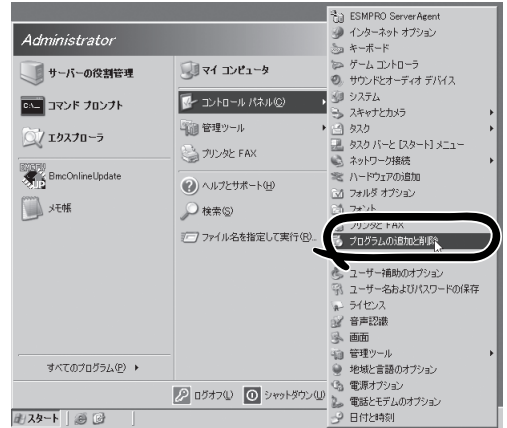
日本語をサポートしていない場合はオプション"-ja"を付けないでください。

```
./BmcOnlineUpdate
```

アンインストール

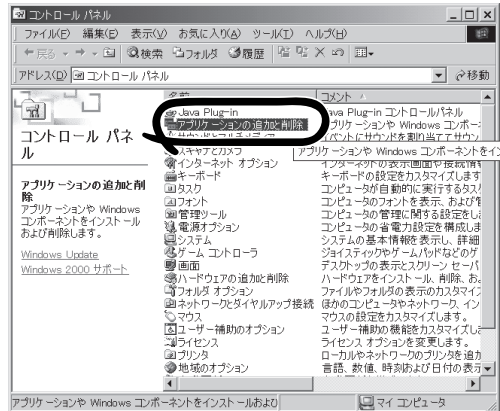
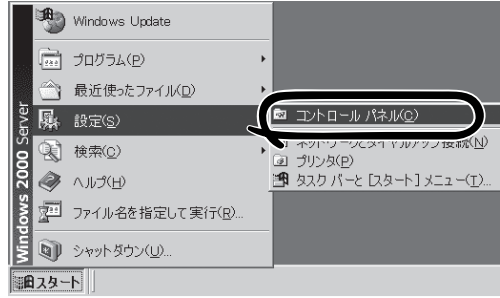
オペレーティングシステムによって異なります。お客様の環境に合ったものを参照ください。

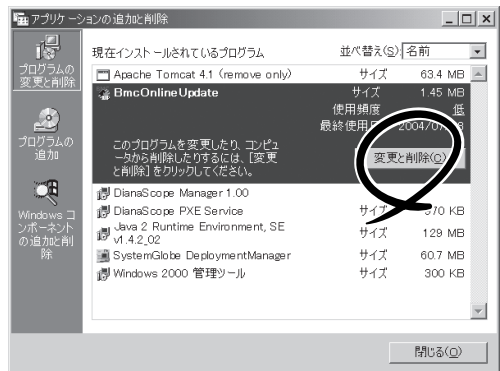
Windows Server 2003

1. スタートメニューから[コントロールパネル]ー[プログラムの追加と削除]の順にクリックする。

2. [BmcOnlineUpdate]をクリックし、[変更と削除]をクリックする。

   以降はダイアログボックスのメッセージに従ってアンインストールしてください。

Windows 2000

1. スタートメニューから[設定]－[コントロールパネル]－[アプリケーションの追加と削除]の順にクリックする。

2. [BmcOnlineUpdate]をクリックし、[変更と削除]をクリックする。

   以降は、ダイアログボックスに表示されるメッセージに従って操作し、アンインストールしてください。

エラー表示一覧

以下にエラーメッセージと対処方法を示します。

メッセージ	対処方法
アップデートの必要がありません。	現在ご使用の環境は、アップデートしようとしたデータより新しいか同じデータが適用されています。
対象装置ではありません。	データが対象装置のものではありません。対象装置のデータでUpdateを実行してください。
BMC情報を取得できません。	リモートマネージメントカード/アドバンスドリモートマネージメントカードが正常に挿入されているか確認してください。 BMCを挿入後にUPdateを実行してください。
オンラインモードに移行できません。	BMCがビジー状態の可能性があります。 数分後に再度実行してください。
運用中のデータの退避に失敗しました。	
更新モードに移行できません。	
データの更新中にエラーが発生しました。	
終了処理に失敗しました。	
IPMIドライバが見つかりません。	IPMIドライバをインストールしてください。
サポート対象外です。	アップデート機能をサポートしていないBMCです。 このツールによりアップデートはできません。

対処方法を実行しても、アップデートに失敗した場合は保守員に連絡してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

本装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

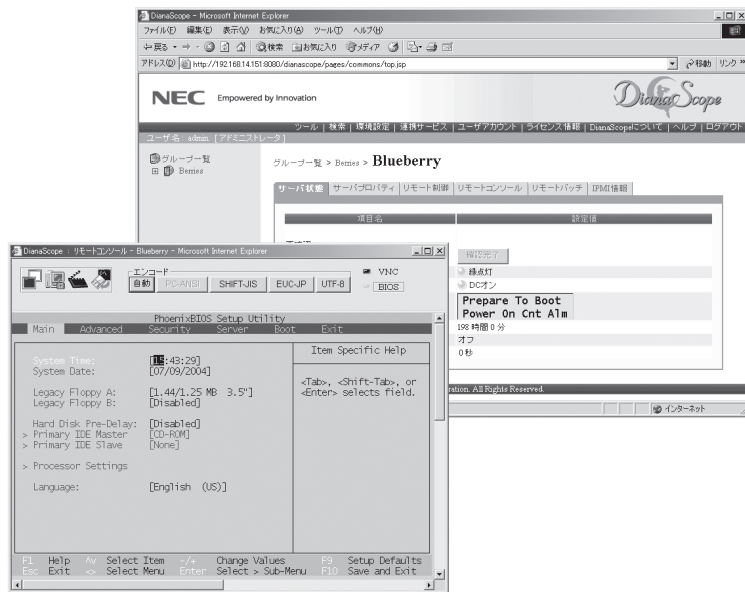
ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本装置にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。

DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。

本製品においてDianaScopeを使用するためにはオプションのサーバライセンスが必要です。本製品には以下のサーバライセンスが添付されています。

－ UL1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)
本製品を1台管理するためのライセンス

Power Console Plus(管理PC)

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus(管理PC)を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照ください。

本装置の3.5インチハードディスクドライブベイまたはオプションの増設HDDケージをディスクアレイ構成にした場合、Power Console Plusをインストール後、Enclosure ManagementメニューのEnclosure Property画面や、システムイベントログに以下のように表示されますが、3.5インチハードディスクドライブベイやオプションのHDDケージではFAN2は使用しないため、動作には問題ありません。

- Enclosure Property画面上

  Fan 1: Operational
  Fan 2: Not present

- システムイベントログ表上

  Adapter 1 Channel1 Target 6: Status of Fan #2=0x02: Not Installed

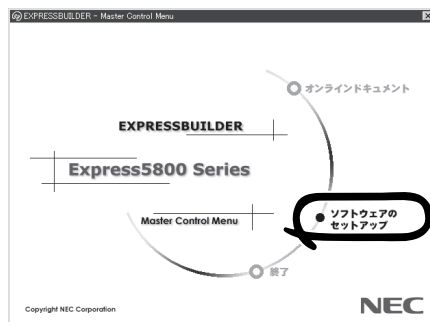
Power Console Plus(管理PC)をインストールする前に

Power Console Plus(管理PC)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、Service Pack 6a以降が適用されていること
- Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること

Internet Explorer4.01 Service Pack 2以降はWindows NT 4.0のService Pack 5または6a媒体からインストールできます。

Power Console Plus(管理PC)のインストール手順

Power Console Plus(管理PC)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。EXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー［関連ユーティリティメニュー]ー[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC＋管理サーバ」をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。

上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(管理PC)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  すべてのサーバ／管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

  管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。